礼拝 2020年3月29日（日）

題 『 何をしてほしいのか 』

テキスト：マルコによる福音書10章32～45節

新型コロナウイルスが日本や世界をおおい不安が広がっています。

薬の開発も進められているようですが、一日も早い終息を祈り願うばかりです。ちなみにドイツのオーバーアマガウで1634年から10年に1度行われている村人あげてのイエス・キリストの受難劇は今年の予定でしたが、2022年に延期になったと聞きました。2010年に訪問する機会がありましたので、どうなるかな、気になってはいましたがかなりショックでした。

この劇の由来は、380年ほど前にこの村を襲ったペストの大流行に始まりません。今年の新型コロナの流行によりこの小さな村の受難劇が受難を迎えます。村人たちは10年かけて準備をします。ちなみにナチス時代にはこの受難劇はヒトラーのユダヤ人迫害に利用された受難の歴史もあるようです。

そんな中、桜も咲きだしました。不安と共に希望も忘れずに落ち着いて日々を過ごしたいものです。

心がふさがちになると見えるものも見えにくくなってしまうのも現実だと思えますが、神さまが与えてくださっている小さな良いものを心で感じながら日々過ごしたい思います。

さて、今日の箇所には、いよいよ主イエスと弟子たちが主イエスの受難の地であるエルサレムの町に近づいていく場面が記されています。エルサレムは「神の都」と呼ばれていた地です。しかし、今やこの地は神を忘れ、人間の欲望が支配する地へと変わり果てていたことに、主イエスは心を痛み、嘆かれました。32節には「一行がエルサレムへ上って行く途中、イエスは先頭に立って進んで行かれた。」とあります。また「それを見て、弟子たちは驚き、従う者たちは恐れた。」とあります。この時、イエスの姿をみた人々はただならぬ気配に圧倒され、驚き、恐れたようです。今まで弟子たちが見たことのないイエスさまの表情だったのだと思います。

かつて主イエスは、嵐の海の中で舟のかじ取りを弟子たちに任せて、ご自身は艫（とも）の方で枕して眠っておられたことがありましたが、今日の場面では、自ら「先頭に立って進んで行かれた」のです。「先頭に立って」という言葉は、「先に進む」という意味や、「連れて行く」「引き出す」という意味があるということです。弟子たちをご自分の歩む道へと引き出し、連れて行こうとの強い意志を感じます。

イエスさまはエルサレムで自分を待ち受けている苦しみを知っておられそれを語られたのです。

33:「今、わたしたちはエルサレムへ上って行く。人の子は祭司長たち
や律法学者たちに引き渡される。彼らは死刑を宣告して異邦人に引き渡す。

34:異邦人は人の子を侮辱し、唾をかけ、鞭打ったうえで殺す。そして、
人の子は三日の後に復活する。」と記されています。

主イエスはエルサレムの町で、人間としての耐えがたい侮辱と鞭打たれると
いう肉体の苦しみを受け、十字架の死へと渡されたのです。

しかし、イエスにあっては、死は死のままでは終わらないのです。「人の子は三日
の後に復活する。」のです。復活の前に、十字架の死は避けられなかったのです。
苦しみと恵みが一つに重なっているのです。私たちも、思ってもみなかった苦
しみにあることがあります。どうして、なぜと悩み、苦しみます。ここにキリ
スト者の忍耐が問われます。でも、この忍耐は永遠の忍耐ではありません。し
ばらくの忍耐なのです。

イエスのことばを聞いた弟子の中の「ヤコブとヨハネ」は、イエスさまの所
に来て、35 節「先生、お願いすることをかなえていただきたいのですが。」と
頼みます。36:イエスが、「何をしてほしいのか」と言われると、37:二人は
言った。「栄光をお受けになるとき、わたしどもの一人をあなたの右に、もう一
人を左に座らせてください。」二人はイエスが神さからこれから先、栄光の座
に座られ時、他の人より高い地位につけてほしいと頼んだのです。正直と言え
ば正直でした。イエスは二人に言われました。「あなたがたは、自分が何を願
っているか、分かっていない。このわたしが飲む杯を飲み、このわたしが受け
る洗礼を受けることができるか。」ここで言われるわたしが飲む杯とかわたしが
受ける洗礼とは、今からイエスが受けられる苦難、十字架の苦しみを意味して
います。二人は「できます」と言いました。

実際この二人は、主イエスの十字架の死以後に神の力である聖霊が降り地上
に教会が誕生してから迫害で殉教の死を遂げたと言われています。

主イエスは二人に言われました。「確かに、あなたがたはわたしが飲む杯を飲
み、わたしが受ける洗礼を受けることになる。40:しかし、わたしの右や左にだ
れが座るかは、わたしの決めることではない。それは、定められた人々に許さ
れるのだ。」この二人のあつかましい行為に気づいた他の弟子たちは、この二人
に腹を立てます。これも当然のことでしょう。弟子たちは大なり小なりこの二
人のような考えを持っていたということです。

私も私たちも例外ではないように思います。弟子の「ヤコブとヨハネ」のよ
うに、「栄光をお受けになるとき、わたしどもの一人をあなたの右に、もう一人
を左に座らせてください。」と言うような、最後は自分の事にこだわり、自分の
ことに心を支配されるようなこともあるのではないのでしょうか。

この時、主イエスは弟子たちの心を、良い点も悪い点もすべてご存知だったのだと思います。それでもイエスさまは弟子たちを大切にしておられたのです。わたしたちを大切に思ってくださいっているということです。

そして、自分がこの地上から天に召される日のことを覚えて、愛する弟子たちに言ってみれば遺言のように、大切な教えを弟子たちに語られました。

42:そこで、イエスは一同を呼び寄せて言われた。「あなたがたも知っているように、異邦人の間では、支配者と見なされている人々が民を支配し、偉い人たちが権力を振るっている。

これは、当時ユダヤを支配していたローマ帝国の支配者、偉い人々のことだと言われます。43:しかし、あなたがたの間では、そうではない。

44:いちばん上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。

イエスの弟子たちは、支配者やこの世の偉い人たちのようにふるまってはいけない、との戒めです。むしろ反対に、あなたがたの中で偉になりたい者は、皆に仕える者になりなさいと諭されたのです。

なぜならイエス様は神の子として、人の子として「45:人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである。」との言葉を身をもって実行されたのです。

身代金とは、本来、戦争で捕虜となっている人を救い出すためのお金、奴隷を解放するためのお金のことだったようです。

主イエスは、罪やこの世の欲の奴隷となっているような私たちを解放するため、罪と欲に、不安と恐れ、死の不安に心を支配されている人たち、わたしたちを救い出すために、自らを身代金として差し出してくださいましたのです。このイエスさまの姿に、イエスを救い主と信じる人々は、神さまの人間を救う計画を見て、確信したのです。イエスの愛を知った者たちは、イエス・キリストの苦しみを知り、その愛に感謝して、自分の自由な意思で、悩んでいる人、苦しんでいる人々に仕えていこうとするのです。

神さまと人に、仕えて行く姿勢は、まず苦しんでいる人のそばにいて、耳を傾けること。

仕える道は、何か人に良いことをするだけではないと思います。人に何か良いことをしてもらった時に、素直に「笑顔でありがとう」というのも、これもまた人に仕える道ではないかと思うのです。

主イエスは、弟子たちや私たちを仕える生き方を通して、十字架のかなたから差し込む復活のいのちの道へと私たちを連れて行ってくださろうとしているのです。今、私たちの前を、主イエスが先頭に立って歩み、私たちが歩きやすいように、導いて下さっていることを信頼して歩みたいと願います。

◆イエス、三度自分の死と復活を予告する

32:一行がエルサレムへ上って行く途中、イエスは先頭に立って進んで行かれた。それを見て、弟子たちは驚き、従う者たちは恐れた。イエスは再び十二人を呼び寄せて、自分の身に起ころうとしていることを話し始められた。

33:「今、わたしたちはエルサレムへ上って行く。人の子は祭司長たちや律法学者たちに引き渡される。彼らは死刑を宣告して異邦人に引き渡す。

34:異邦人は人の子を侮辱し、唾をかけ、鞭打ったうえで殺す。そして、人の子は三日の後に復活する。」

◆ヤコブとヨハネの願い

35:ゼベダイの子ヤコブとヨハネが進み出て、イエスに言った。「先生、お願いすることをかなえていただきたいのですが。」

36:イエスが、「何をしてほしいのか」と言われると、

37:二人は言った。「栄光をお受けになるとき、わたしどもの一人をあなたの右に、もう一人を左に座らせてください。」

38:イエスは言われた。「あなたがたは、自分が何を願っているか、分かっているか。このわたしが飲む杯を飲み、このわたしが受ける洗礼を受けることができるか。」

39:彼らが、「できます」と言うと、イエスは言われた。「確かに、あなたがたはわたしが飲む杯を飲み、わたしが受ける洗礼を受けることになる。」

40:しかし、わたしの右や左にだれが座るかは、わたしの決めることではない。それは、定められた人々に許されるのだ。」

41:ほかの十人の者はこれを聞いて、ヤコブとヨハネのことで腹を立て始めた。

42:そこで、イエスは一同を呼び寄せて言われた。「あなたがたも知っているように、異邦人の中では、支配者と見なされている人々が民を支配し、偉い人たちが権力を振るっている。」

43:しかし、あなたがたの間では、そうではない。あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、

44:いちばん上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。

45:人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである。」